



活発な議論をするために
知っておくべき心理学のアプローチ

00331

書いてあること

- ・ 主な読者：チームのパフォーマンスを高めたい経営者
- ・ 課題：優秀な人材を参加させているのに、なかなかチームの成果が上がらない
- ・ 解決策：集団だからこそ起きるマイナスを理解し、対処する

1 なぜ、集団で議論するとうまくいかないのか？

集団で議論することには、

- ┆ 多様な意見が出てくる
- ┆ さまざまな視点に気付くことができる

といった効果があります。ですから経営者は、社内でも優秀な人材を集めて議論をしようと思います。あるいは、とにかく全員に参加してもらい、多方面から意見を募ろうとすることもあります。しかし、実際に会議をしてみると、

- ┆ 優秀な人材を集めたのに、期待していたような成果が上がらない
- ┆ 長い時間をかけて会議をしたが、なかなか良い案が出ない

という問題がよく起こります。

その背景には、「社会的手抜き」「同調」「集団極性化」といった集団で起こりがちな心理が影響を及ぼしていることがあります。集団で議論するメリットを享受するためには、まず集団のデメリットと、その対策を念頭に置いたマネジメントが重要です。対策は次の3つです。

1. 個々のメンバーの責任を明確にする（社会的手抜きへの対策）
2. 日ごろから発言しやすい環境をつくり、実際に発言の機会を与える（同調への対策）
3. 議論が終わった後に、個人で振り返る機会をつくる（集団極性化への対策）

なぜ、これらの3つが重要になるのか、その理由を確認したい方は、ぜひ、この記事の続きをお読みください。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。